



みなみっ子

10月の生活目標：「読書をしよう」

NO. 12

四万十市立中村南小学校 (TEL:34-7400)

「さわやかな あいさつ歌声 ひびきます」

毎朝、玄関で掃除をしていると、ほとんどの人が、「校長先生、おはようございます。」「校長先生、ありがとうございます。」と元気なあいさつをしてくれます。立ち止まって、丁寧におじぎをしてくれる人も多くなってきました。

中には、校門の向こうから、元気な声で「校長先生、おはようございます！」とあいさつをしてくれる人も、たくさんいます。

毎朝、子どもたちから元気をもらって、一日のスタートを切ることができています。特に、「校長先生、・・・。」と、あいさつの前に名前を呼んでもらうと、本当にいい気持ちで、その日一日を過ごすことができます。子どもたちに感謝です。



☆うれしいことが続けて☆

2学期になって、中村南小学校の子どもたちの「あいさつ」について、うれしいことが続けてありましたので紹介します。



①交通指導をしていただいている地域の方から

毎朝、学校の下で交通指導をしてくださっている地区の区長さんから、「最近、中村南小学校の子どもたちのあいさつがとても良くなりました。」という、うれしい言葉をいただきました。「『おはようございます。』や『ありがとうございます。』とほとんどの人が言ってくれています。」ということでした。また、「立ち止まって、丁寧にあいさつをしてくれる人もいて、びっくりしました。」ということも言っていました。

②読み聞かせボランティアの方から



水曜日に、読み聞かせに来てくださっている読み聞かせボランティアの方からも、「今朝の子どもたちのあいさつがとてもよかったので、びっくりしました。ていねいにおじぎをしてくれる人がたくさんいて、とてもいい気持ちになりました。」といううれしい言葉をいただきました。

③学校の周りをそうじしている地域の人に

朝、学校の周りのそうじをしてくれている地域の人にも、「おはようございます。」や「ありがとうございます。」のあいさつができています。学校の周りをきれいにしてくれている地域の方に、感謝の気持ちを伝えることができる南小学校の子どもたちは素敵だな、と思いました。



④休みの日の子どもたちの様子から



先々週の日曜日のことです。5年生の女子2人が、信号のない横断歩道を渡ろうとしていて、それに気づいた車が止まってくれました。横断歩道を渡り終わった2人は、そのあと、止まってくれた車に丁寧におじぎをしていました。見ていて、とても気持ちがよかったです。



先週の土曜日にも、同じような場面を見ました。またまた、5年生の女子2人（先々週の日曜日とは違う2人）です。信号のない横断歩道で止まってくれた車に、丁寧に感謝の気持ちを伝えるおじぎができていました。

横断歩道で、止まってくれた運転手は、歩行者が横断歩道を渡ろうとしていたら、止まるという当たり前のことをしたのですが、そういう当たり前のことに対しても、きちんと感謝の気持ちを伝えることができるということは、すばらしいですね。

そして、何よりうれしかったのは、来年の南小学校のリーダーになる5年生のそういう姿を見ることができたことです。



6年生の道徳の教科書には、あいさつや言葉づかいについて、次のように書かれています。

☆礼儀正しく真心をもって☆

あいさつや言葉づかい、ふるまいなどの礼儀は、相手を敬い、大切に思う心を表したもので、社会の中でさまざまな人々と接し、生活するうえでは欠かせないものです。

礼儀作法には相手に対する真心がこめられています。相手を尊重する気持ちがあっても、それを相手に伝えるためには、適切な態度やふるまいなどの形にすることが必要です。時と場に応じて、相手に真心を伝えるためには、どうすればよいか考えていきましょう。

◎中村南小学校の子どもたちのあいさつは、とても良くなったのですが・・・

友だちや先生に対する言葉遣いが、気になります。子どもたちの家での言葉遣いは、どうでしょうか。ぜひ、子どもさんの言葉遣いについて、各家庭でも気をつけてほしいと思います。

◎四万十市・三原村陸上記録会がありました。

16日（金）に、四万十市・三原村の陸上記録会が、宿毛市陸上競技場で行われました。6年生が午前、5年生が午後、参加して、それぞれの競技で自己ベストを目指して全力でがんばりました。競技だけでなく、あいさつや応援の態度なども、中村南小学校の高学年として、そして学校の代表として、すばらしかったです。

入賞者については、次回の学校通信でお知らせします。



先生たちも勉強しています

中村南小学校では、校内研修の時間（毎週水曜日の15時10分から）を設定し、研修をしています。

研究主題を『見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくり～「問い」を作るための学習過程・指導方法の工夫～』として、よりよい授業を目指して研修をしています。

これは簡単に言えば、「これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力を育てるためには、どのような授業にしないといけないのか」「子どもたちが、考えてみたいと思うような授業にするためには、どんな工夫がいるのか」「子どもたちが勉強することが楽しいと思えるような授業にするにはどうすればいいのか」ということを、先生全員で考えいく研修をしています。



例えば、1年生の算数の授業に向けては、夏休み中に先生を子ども役にして、模擬授業を行い、どんな授業がいいか考えました。そして、その模擬授業の改善点を踏まえて、授業についての話し合いを行い、先日、1年1組が授業を行いました。さらに、次は1年2組で、授業を行うというように、よりよい授業を目指して、先生たちも日々勉強をしています。

中村南小学校では、算数の授業が「たいのある授業」となるよう取組を行っています。「たいのある授業」とは、子どもたちが「考えてみたい」「やってみよう」「調べてみたい」「説明したい」「計算してみよう」と思うような授業です。すべての算数の時間に、そのような授業をすることは難しいのですが、できるだけ多く「たいのある授業」になるよう先生方は、日々研究し、努力しています。

「たいのある授業」を一つでも多くすることで、算数好きの子どもが南小学校にどんどん増えていったらいいな、と思っています。

研究主任 上田 浩稔

児童会役員選挙

☆後期の児童会役員が決まりました。

21日（水）の1時間目に、後期児童会役員選挙がありました。会長、副会長（6年生と5年生）、書記（6年生と5年生）に、それぞれ2名ずつが立候補し、選挙を行いました。

4・5・6年生の児童に、応援者と立候補者が演説を行い、その後、一人ひとりが投票を行い、投票用紙を投票箱に入れていきました。



立候補者の演説は、中村南小学校をもっと良くするためにはどうしたらいいのか、どうしたいのか、具体的にどんなことをするのか、それぞれに工夫して訴える内容でした。

例えば、「『南っ子 きらりかがやく さしすせそ』をみんなができるようにするために、こんなことをしたい」「全校レクをみんなが楽しめる内容になるよう工夫したい」「クリーン作戦で、四万十市をきれいにしたい」など、中村南小学校を良くするためには、どうしたいか、という熱い思いが伝わる内容でした。

選挙の結果、次のみなさんが後期児童会役員になりました。

児童会長	: 三浦さん
副会長（6年生）	: 駄馬さん
副会長（5年生）	: 川村さん
書記（6年生）	: 森脇さん
書記（5年生）	: 沖本さん

当選したみなさんは、今回惜しくも役員になれなかったみんなの気持ちも受け止めて、この中村南小学校をすばらしい学校にしてほしいと思います。